

## 2 グループ

私たちのグループでは関東学院の校訓である「人になれ 奉仕せよ」には、どのような意味があるのか、そして私たちが看護師を目指す上でこの校訓をどのように理解して看護実践に活かしていけるのかについて話し合いました。

まず「人になれ」とは、「奉仕せよ」の言葉に繋がっているのではないかと考えました。それは、ある学生から松田先生の講演会でお聞きした良きサマリア人は、無償の愛を持った人ではないかという意見から始まりました。良きサマリア人とは、追い剥ぎに襲われ怪我をしたユダヤ人を助けた人です。このサマリア人は、ユダヤ人に差別されていたにもかかわらず、倒れていたユダヤ人を介抱した上に、宿屋の主人に治療費を渡しました。その行為に対し普通なら、自分のことを差別している人を助けたいとは思えないのではないかという意見が出ました。

このサマリア人の行為は、自分のことを顧みずに相手のことを助けたいという気持ちの表れで、奉仕につながっていると思います。つまり、私たちが考える「人になれ」とは「奉仕できるひとになれ」ということではないかと考えました。そしてこのサマリア人のように無償の愛を持って人と関わることが、看護の第一歩になると考えます。しかし、サマリア人のように、無償の愛で相手を思いやって行動に移すことは容易なことではありません。私たちが少しでもサマリア人のように患者さんを、大切に考え、関われる人になるためには、日常生活でのひととの関わりの経験から気付くことが多いのではないかという意見がでました。

私たちは技術演習を通してさまざまな看護技術を学生同士で練習してきました。その一つに血圧測定があります。看護師役は患者役になった学生の反応を気にすることなく自分の技術の向上を優先させて血圧測定をしまいがちです。その一方で患者役は看護師役の学生が、一生懸命に血圧を測ろうとしているので、マンシェットの加圧で腕が締め付けられる苦痛も少しぐらいなら我慢しようと思ってしまいます。私たちは、このように看護師と患者の両方を体験し、自分を優先してしまいがち傾向を知ることや、相手の感じる痛みや辛さを知ることが出来ました。また、患者が身体的に感じている痛みだけではなく、精神的に感じていることも理解し共感することが人になることだと思えます。

次に、「奉仕せよ」の奉仕とは何かということを話し合いました。私たちは「奉仕」とは誰かの為になにかしたいと思うこと全てであると考えました。その理由は、ある学生の祖父が脳梗塞を患った時のエピソードがきっかけでした。学生の母は祖父の好物を食べさせることよりも医師から指導された、塩分少なめな健康食を優先しました。これは健康で長生きして欲しいと思う学生の母の奉仕の現れだったと思います。その結果、祖父は長生きしたそうです。しかしその学生は、祖父は長生きしなかったかもしれないが好きな物を食べられる老後を送る選択もあったのではないかと思ったそうです。これは祖父が望むことを優先させた奉仕の考え方の一つだったと思います。このように、奉仕は、それを行う人の数だけあるのではないかと考えます。このような学びは、実生活だけに限ることはなく実習を行う上でも当てはまると思えます。

生活援助実習Ⅱでは、援助計画を立て実践してきました。前日の実習で得た情報を元に一晚患者さんのために自分ができることは何かと考えた計画も翌日の患者さんの気分や体調の変化によって、すべてを変更せざるをえなくなることもありました。そのような時には自分の知識と経験不足を痛感し悔しく感じることもありました。しかし、患者さんの気分や発言を無視して無理に計画を実行するのは、「患者主体ではなく看護師主体の援助でしかないよ」と、先生や指導者の方に指導されたことがありました。また、自らの技術不足によって、患者さんの身体や精

## 2 グループ

神に負担をかけてしまい、意図せずに患者さんに苦痛を与えて迷惑をかけしてしまうこともありました。そのような出来事があっても、患者さんから「ありがとう」という言葉をかけてもらえることがあります。私たちは患者さんを通して病気のことや援助技術の修得をさせていただいています。それでも、患者さんは「ありがとう」と言ってくれるのは、私たちが患者さんの日々変化の様子を観ながら、自分の持っている知識を総動員させて関わっていることが伝わったからではないかと、考える中で振り返りました。

また、奉仕は患者さんを主体にして考える一方で、自分のことも大切にしている行為でないか、という意見も出て、自分と相手のバランスを取りながら支えあっていることではないかと考えます。

この話し合いを通して私たちは、「人になれ 奉仕せよ」とは、「奉仕できる人になる」ということだと考えます。これは看護師を志す者にとって基盤となる考えの一つだと思います。つまり、患者さんと真摯に向き合い相手の辛さを一緒に感じようとする姿勢を持ちながら、自分自身をも大切にできることだと思います。私たちは今、看護師になるための学習や実習を通してさまざまな経験を積んでいる途中経過にあります。専門的知識、技術を修得することは、容易ではありません。ここに居る仲間と支えあい、これからの実習でも「奉仕できる人」について考え、校訓である「人になれ 奉仕せよ」を実践できる人になれるよう日々の学びを大切にしていきたいと思います。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。